第 334 回金沢眼科集談会
プ ロ グ ラ ム

日　時　平成 26 年 12 月 21 日（日）13：00～16：30

会　場　金沢ニューグランドホテル４Ｆ　金扇の間

〒920-8688　金沢市南町 4-1　電話：076-233-1311

連絡先：〒920-8641 金沢市宝町 13-1

金沢大学眼科学教室

電話（076)265-2403　　ＦＡＸ（076)222-9660

ご案内図

- 参加費は 2,000 円です。
- **集談会終了後、懇親会（会費無料）を予定しております。**
- 本学会は専門医制度生涯教育事業（No.59003)として認定されています。
- 一演題質疑応答含めて 15 分を予定しております。
- デジタルプレゼンテーションに限ります。デジタルプレゼンテーション用に液晶プロジェクターを一台用意します。パソコンはご自身のものをお持ち下さい。
- 「眼科臨床紀要」に掲載しますので演者は抄録（400 字以内）をデータ形式にてご提出下さい。

共催：金沢眼科集談会
　　参天製薬株式会社

― 次回ご案内 ―

平成 27 年 4 月 12 日（日）**金沢大学附属病院宝ホール**にて行う予定です。

一般講演

(13：00～13：50)　**座長　藤田（ふじた）　和也（かずや）　先生（富山大）**

1. 乱視と瞳孔径が視力に与える影響
-光学シミュレーションソフトによるアプローチ -

○三田（みた）　哲大（のりひろ）、佐々木　麻衣、高橋　依子、久保　江理、佐々木　洋（金沢医大）

2. 小発表三題:1.水晶体嚢真性落屑 2.ミー散乱によるアクリル IOL の偽着色現象 3.趾先端挫滅創の浸潤療法

○助川（すけがわ）　俊之（としゆき）（加賀市民病院）

3. 北陸地域におけるアカントアメーバ角膜炎の発生状況と分子遺伝学的特長

○小林（こばやし）　顕（あきら）[1)]、横川　英明[1)]、山崎　奈津子[1)]、所　正治[2)]、RAHMAN Md Moshiur[2)]、及川　陽三郎[3)]、杉山　和久[1)]
1)金沢大　2)金沢大（寄生虫感染症制御学）　3)金沢医大（医動物学）

(13：50～14：25)　**座長　瀧原（たきはら）　祐史（ゆうじ）　先生（福井大）**

4. 前眼部 OCT を用いた白内障術後の結膜瘢痕の観察研究

○後沢（ござわ）　誠（まこと）[1)]、高村　佳弘[1)]、友松　威[1)]、松村　健大[1)]、横田　聡[1)2)]、坂下　正典[1)]、三宅　誠司[1)]、稲谷　大[1)]
1）福井大、2）京都大

5. 黄斑部網膜内層厚による強度近視眼の緑内障診断
〜眼軸長補正と長眼軸データベースの効果〜

○高辻（たかつじ）　樹理（じゅり）、東出　朋巳、大久保　真司、宇田川　さち子、阪口　仁一、高畠　萌、若江　春花、杉山　和久（金沢大）

（14：25〜15：00）　**座長　柴田（しばた）　伸亮（しんすけ）　先生（金沢医大）**

6. アイトラッカーを用いた健常者と外転神経麻痺患者の衝動性眼球運動速度の比較

○藤田（ふじた）　和也（かずや）[1)]、三原　美晴[1)]、田村　了以[2)]、掛上　謙[1)]、林　篤志[1)]

1)富山大　2)富山大（統合神経科学）

7. IgG4 関連眼疾患の無治療の臨床像

○濱岡（はまおか）　祥子（しょうこ）、高比良　雅之、杉山　和久（金沢大）

特別講演

座長　杉山和久（すぎやまかずひさ）　（金沢大）

（15：00〜15：45）

「強度近視における外科的黄斑疾患の考え方と手術治療」

大阪大学 講師　生野（いくの）　恭司（やすし）　先生

（15：45〜16：30）

「最近の眼科医療におけるいくつかの話題について」

日本眼科医会会長　高野（たかの）　繁（しげる）　先生

「強度近視における外科的黄斑疾患の考え方と手術治療」

大阪大学 講師　生野恭司先生

強度近視に伴う中心窩分離症（MF）は、網膜内層の非伸展性による牽引から分離症を生じ、網膜剥離や黄斑円孔を生じる。しかしながら、症例によって進行速度や程度が異なることは大きなミステリーである。1999 年に Gass は黄斑円孔の原因として Muller Cell Cone (MCC)の重要性を説いた。MCC は楔状のグリア組織で、中心窩の構造を保つ基本骨格である。MF では、網膜内外層を柱状組織が連絡するが、この組織は常に中心窩で太く、周囲と異なり、垂直に立っている。主として MCC から構成されるこの組織を Foveal Thick Column (FTC)と名付けた。FTC は MF のほとんどの症例に見られ、進行とともに伸展する様子が見られた。また、多くの場合、網膜剥離が FTC の基底部から生じるので、FTC は中心窩において、内境界膜からの緊張を網膜外層に伝える役目を担っていると考えられる。

内境界膜剥離により FTC の基底膜が失われると、MCC も失われることから、術後黄斑円孔を生じる。術前から網膜外層が欠損している症例では、特にそのリスクが高い。それを補うために、中心窩回避の内境界膜剥離を行うことが多いが、それでも黄斑円孔を生じる症例がある。また、剥離部位に一致して、網膜表面が凸凹になる、Retinal dimpling sign は、術後の網膜機能障害を示唆するものである。すなわち、まだ強度近視に対する黄斑手術手技は完成の域に達していない。本講演では、OCT によって得られる中心窩形態に基づき、中心窩分離症、黄斑円孔や黄斑円孔網膜剥離において、我々はどのように向かい合うべきかについて解説する。

「最近の眼科医療におけるいくつかの話題について」

日本眼科医会会長　高野 繁先生

日本眼科医会の会長を拝命して 5 年目をむかえております。いろいろな課題に取り組みましたが、平成 24 年 4 月より本会が公益社団法人としての道を歩むことになったことは、本会の将来を考えるうえで、大きな選択であったと思われます。

本会が目標としている施策を実現するには、(1)有用な眼科医療情報を構築・整備し、(2)国民の目の健康に対する意識向上のための啓発をし、(3)政治的な活動を行うことの３つが不可欠で、この中のどの１つが欠けても、目標を達成できません。このうち(1)と(2)は日本眼科医会が行い、(3)は日本眼科医連盟が担当しております。もちろんこの２つは別々の組織ですが、２つの組織が協力することによって、目標の実現に大きな力を発揮することができます。

今回は、公的な「成人の目の健診プログラム」の創設・ビジョンバンによるフィリピン災害における眼科医療支援・自動車運転免許更新時の視覚検査・学校保健における色覚検査・平成 26 年度診療報酬改定への対応などの最近の眼科医療におけるいくつかの話題となった内容について述べさせていただきます。